

懇切丁寧でした。但し、どうしたわけか、大阪港、境局等は外航船の出入りが頻繁な港湾局にもかかわらず船函郵便に対しての認識不足なのは、首をかしげざるを得ません。小さな局にもかかわらず、和歌山県の下津郵便局が船函郵便のU. P. U. 規約に精通しているのには驚きました。外航船よりの依頼が少ないので、PAQUEBOTゴム印は配備されていませんが、大阪中央にて代行するよう処置するとの事でした。消印のきれいな満月印を押捺してくれた局は四日市局でした。筆者の寄港した港はどうしたわけか太平洋岸のみで、日本海側は富山のみでした。最近とみに船函郵便はあまねく周知されたように見られますが、依頼が少ないために往々にして引き受け拒否するか日本切手を貼るように要求されたことは、すでに過去のこととなりました。

#### d. 東南亜

シンガポール、香港等はU. K. 連邦であり、且つ過去に於いて連邦であった関係から船函郵便専用の鋼製丸型日附印を配備しており、言うことなしの徹底ぶりを見せてくれた事は嬉しい限りでした。香港ではAV-2重量表に依り航空発送に対しては代理店の裏書きを要求されました。

中共：大連、秦皇島、上海、煙台、天津等の海岸都市は勿論のこと、揚子江を外航船が往来していますので、南京も船函郵便が引き受けられている。インドネシアは首都ジャカルタとスマトラ島のドマイを除いて、それ以外の港ではインドネシア切手の混貼、重ね貼りにて発送される参憚たる結果にて船函郵便に対する認識は日暮れて道遠しの感一入です。

台湾：北部、中部、南部の主要港湾都市である基隆、台中、高雄のみにPAQ

UEBOTゴム印が配備されておりますが、外国切手には波消しのみ行い、局印は捨印で処理していますので一寸特異なバックボーカーバーと言えるでしょう。台中に程近い港湾に一番接近している梧棲局にはPAQUEBOTゴム印が配備されていました。

フィリッピン：マニラとか主要都市である港湾局にはPAQUEBOTゴム印があるようですが、筆者は普通の地図には載っていない小さな港のみに寄港したので、インドネシアに似たりよったりの後進国現象でした。

#### e. 欧羅巴

イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン等は、矢張り先進国だけあって、直接手交依頼もよし、郵頼もよしですが、言語障害のために英語使用局以外では船函郵便であることの表示が引き受け局の担当者に理解させることが出来ず、オランダのヘーグでは“無料郵便”と言う一寸風変わりな消印が押されて配達された。イギリスの首都ロンドンでは郵便局が市内の分局でも大きな構えなので、セントラルでなくゼネラル局がロンドンの中央局との事でした。

中央局でなく通信博物館局にバックボーカー印が配備されていたので郵頼の方が便利のように思われました。小さな局にはPAQUEBOT印がないので、PAQUEBOT表示印なしの商船封皮となり、小さな港の船函郵便封皮の作成は先進国でも至難なことでした。

#### f. 北米・カナダ

北米は概して、引き受け、発送共にすんなりとした対応ぶりでした。アメリカではLa Porteはカモメの凶案入りが特異なもので、Seattleは経度緯度により位置を明示しています。どうしたわけか、